一

乍恐以書付奉願上ゟ

当御陣屋表御門年暦相立ゟに付之柱其外扉等に至迄虫喰腐等も相見及大破殊に当六月十日夜大風雨にて悉く損しゟ間修覆等も仕ゟへ共余程根元多く弱く相成ゟニ付此上大風大雪等有之ゟは、保方無覚束ゟ間之柱の根継其外虫喰等の有之諸材木取替修覆仕度奉存ゟ間右の段御聞届被下置ゟは、私共引請修覆可仕奚然上は郡中に不拘普請取掛リ可申ゟ間何卒御聞済ヒ成度奉願上ゟ依之此段以書付奉願上ゟ　以上

当支配所米沢村
入之助
松橋村
堀米四郎兵衛

申九月
柴橋御役所

申
天保七年
（一八三六年）

午年
天保五年
（一八三四年）

申年
天保七年
（一八三六年）

未年
文政六年
（一八二三年）

一、

乍恐以書付奉願上ゟ

当御支配松橋村名主堀米四郎兵衛米沢村百姓八之助奉申上ゟ幸生銅山近来打続不盛にて山中一同困窮ゟ罷在諸上納等も差支ゟ程の義に付去ル午年既ゟ休山にも可上仰之趣承知仕り御時節柄御必用且乍聊も御國益を失ひゟ義歎敷奉存同年九月中右銅山請負人共後見仕出銅相進ゟ様取計申度奉願上丶処御聞届ヒ成下置午九月より当申九月迄中三ヶ年の間後見仕り諸上納物は勿論山中諸入用の処無差支出銅相進ゟ様可ヒ取計旨ヒ仰付奉畏ゟ其節より私共存分の仕入仕り代の者両人定詰為仕ゟ外両人月々登山仕り格別出精為仕ゟへ共素々数年不成績の義ゟて見込ヒは存外相違仕不少入用相懸ゟても出銅少分に付弥出精仕既ゟ去申年見込通り三百五十箇上納仕ゟへ共諸入用ゟ見競ゟては出銅三分ヶ一出来不申私共手元案外の間損にて中々相続難出来何様にも行届兼ゟ間去未十月中より当申三月ゟ至り後見御免ヒ仰付ゟ様度々奉願上ゟへ共御厳重御利解の上仮会不容易間損出来ゟとも冥加の為め可相勤旨厚ヒ仰諭深奉恐入難黙止所々新に見立ゟ上坪花坑木高樋等夫々普請仕り出精相勤罷仕之内六月十日近来稀成大風雨洪水にて出銅多分流失歎々は勿論居小屋其外道橋等ゟ至る迄皆大破に相成普請修覆大造の儀ゟ御座ゟ間早速御届奉申上ゟ処御出役御検分の上歎々水押入破損相成ゟ場所并道筋変地相成ゟ分は勿論大橋十三ヶ所其外共急普請不仕ゟては人馬通路の差支山中稼方難出来俄ゟ取懸り多分の入用にも無頓着晝夜心配仕り漸くの義にて先々働方出来ゟ様相成り聊安心仕ゟへ共右の次第ゟ付出銅存外相劣買金猶更相嵩み殆ヒ当惑仕実ゟ私共百姓相続にも相拘りゟ程の義に

に付当九月年季明の義にも御座い向何卒格別の御仁恵を以て後見此迚にて御免ヒ仰付い様仕度尤請負人白岩村吉十郎外三人にも相断り此段奉願上い　以上

申九月

幸生銅山
請負人後見
米沢村百姓
八之助
右同断
松橋村名主
堀米四郎兵衛

林　伊太郎様
柴橋御役所

甲年
天保七年
（一八三七年）

三、

乍恐以書付奉申上ゝ

当御支配所松橋村名主堀米四郎兵衛米沢村八之助両人奉申上ゝ今般当郡中御取締并非常の節御守衛向等夫々御備被為在ゝ趣承知仕誠以て難有仕合一同平安に治まり銘々業躰相勵安住仕ゝ様可相成右に付聊にいへ共御奉公相勤度奉存いへ共兼て覚悟の義も無御座甚恐入いへ共前段取締被仰出ゝ上は何時何様の義出来急速御出役御馳付ヒ遊義も可有御座いへ共御歩行にては遠方悪路時刻相延自然大変にも可相成哉右様の節は御馬にて御出張御差図御座いは、御手廻り宜敷速に御取鎮め御出来の義と奉存、就ては乗馬二疋私共飼立置御陣内備に仕度飼料其外都て私共引受取賄御賞不相成様可仕奉存ゝ向右ゝ段御聞済被仰付ゝは、難有仕合奉存ゝ

依之此段以書付奉申上い　以上

亥七月

亥
天保十年
（一八三九年）

米沢村　八之助
松橋村名主　堀米四郎兵衛

柴橋御役所

四、差上申一札之事

今般農兵御取立に仰出右頭取私共江ヒ仰付ハ間申合人数組立方調練其外の義見込の趣申上御差図を受け実備相立ハ様粉骨可仕旨ヒ仰渡一同承知奉畏ハ依之御請証文差上申処如件

亥
天保十年
（一八三九年）

亥九月七日

当御支配所
村山郡延沢村
百姓惣内
米沢村　八之助
長崎村　柏倉文蔵

新見蘆藏様

柴橋御役所

五、

覚

一弓　拾五張

外弓弦三十本

吉川村組頭　長左衛門

白山堂組組所　庄左ェ門

湯野沢村名主　孫　助

柴橋村組頭　七兵衛

〃村名主　傳四郎

谷沢村名主　嘉兵衛

松橋上組　堀米四郎兵衛

鞘　十五　　松橋村上組
矢　四百五十本　　名主　堀米四郎兵衛

右者今般農兵御仕立の儀に付御代官様被為遊御持参ハ弓矢其外書面の通私共江御預被仰付奉預ハ依之御請取奉差上ハ　以上

亥九月七日　　右　堀米四郎兵衛
柴橋御役所

亥
天保十年
（一八三九年）

六、

乍恐以書付奉申上ハ

一米拾五俵也

右者一昨十八日夜碧河江楯西村六供町組宇兵工より出火同所並上町組西ノ町組新町組焼失致し稀成大火ゟて困窮の者も有之様子ゟは付今般書面之通り施米差出御差図請困窮の類焼相救い様仕度奉存ゝ依之此段書付を以て奉申上ハ　以上

寅
天保十三年
（一八四三年）

寅三月廿日

柴橋御役所

松橋村上組
名主　堀米四郎兵衛

七、

松橋村上組　四郎兵衛

右四郎兵衛祖父四郎兵衛儀天保二卯年先名主十郎左エ門儀御検地帳江墨入等致し其外似せ金取締方被仰付度歎願出ゟ儀にも可有子殊の外心得違の者に付御公儀様より追放ヒ仰付ゟ程のものに付勤役中村高七百三十石余の内三百石余文化度より追々拔畝ヒ唱ひ他へ質流地に相渡し残無地高〻相成右御年貢年々相嵩み村方弁納金凡三百五拾両之内金三百二十両程祖父四郎兵衛全弁納仕其後御代官池田仙九郎様御支配中祖父四郎兵衛御召出の上名主役御直にヒ仰付御請仕相勤罷在ゟ処前申上ゟ通り無地高之分追々弁納ゟ相成りゟ事は村方一統の難渋に付右四郎兵衛より金八百余両差出し質流地の分引戻し村内難儀相救ひ其後村内無事に相治りゟ様承りゟ事

一、祖父四郎兵衛代天保四巳年稀成大凶歳の節米壱俵三斗九升入代金壱両弐朱位の節施米百俵余郡中村々へ差出其外居村は勿論近村へ札米と唱ひ前値段より金弐分弐朱引下米壱俵に付

代金弐分の相場を以米弐百俵余安米に売渡し且窮民の看养み乞食等に至る迄施粥米凡五十俵
相施し其節池田様御支配中右奇特筋取斗ハニ付金弐百疋頂戴ヒ仰付ハ事

天保十二年（一八四一年）

一、西丸御炎上の節は、金弐百両御上納仕ハ節御褒美として白銀壱枚頂戴ヒ仰付ハ事

天保十四年（一八四三年）

一、寒河江御支配中天保十二丑年郡中へ備金弐百両祖父四郎兵衛代差出申ハ

一、天保十四年卯四郎兵衛祖父死去致し翌辰年当四郎兵衛父治右衛門百姓株引受名主役相勤
罷在ハ去亥年九月中当四郎兵衛之百姓株相渡名主役相勤罷在ハ当時所持高九百参石也

一、去丑年旱魃に付村方并御料私領村々へ売渡ハ安米丑年分

米弐百三拾俵三斗六升　　米壱俵代金弐分五匁

安米値段

此間損金三拾七両三ト

銀五匁四分　　壱分弐朱三匁
　　差二朱　二匁

寅

天保十三年（一八四二年）

当寅壬七月晦日迄

米弐百八拾三俵二斗一升

此間損四十四両三分弐朱壱匁八分六毛

去丑年旱魃に付柴橋寒河江両郡へ施米仕ハ分

米壱百俵也

米八俵と金四両弐朱　右村困窮者へ相分

金百両　　国恩金上納仕ハ分

金五拾両　此度幸生銅山不盛に付世間の評判悪敷罷成是迄仕入いもの見限り相放れる
鏑浦眼前に出方も相見い義を相歎きいニ付右金仕入方願入当時銅出方に相
成申矣

右四郎兵衛奇特筋取斗い廉に御願に付き奉申上候　以上

寅八月　郡中惣代　市郎兵衛
太右衛門

寅
天保十三年
（一八四二年）

八、

乍恐以書付御請奉申上い

一金弐百両や

右者今般柴橋寒河江両御陣屋合併致し御陣屋一纏めにと為成御普請御入用の内へ書面の通私
共へ出金と仰付承知奉畏い然上は差出方の儀は仰付次第聊無差支相納可申い依之此段御請奉
申上い　以上

寅
天保十三年
（一八四二年）

寅九月廿五日

山田佐金二様
柴橋御役所

松橋村名主
堀米四郎兵衛

九、

七年御冥加金献上納覚（異國船渡来に付）

柴橋附

金百両　金谷原　傳四郎
〃五十両　長崎　文蔵
〃五十両　吉川　長左エ門
〃三十両　西里　庄左エ門
〃二十両　〃　弥右エ門
〃三十両　沢畑　直蔵
〃二十両　長崎　弥次右エ門

〃	二十両	米沢	八之助
〃	十両	根際	勘兵衛
〃	十両	沢畑	宇右エ門
〃	十両	両所	新兵衛
〃	十両	塩渕	佐之助
〃	十両	要害	林兵衛
〃	十五両	沼山	権兵衛
〃	三十両	金谷原	豊七

追加御上納

	金五両	中野	市兵衛
〃	五両	長崎	弥右エ門
〃	五両	〃	三郎兵衛
〃	五両	〃	左惣次
〃	五両	〃	新三郎
〃	三両	〃	又四郎
〃	五両	柴橋	七兵衛
〃	三両	〃	孫七
〃	三両	〃	彦左衛門
〃	三両	金谷原	三郎

金壱両　柴橋　門三郎
〃五両　谷沢　助次郎
〃五両　吉川　三九郎
〃五両　〃　権三郎
〃拾両　貫見　五郎兵衛
〃三両　〃　庄六
〃五両　大井沢　左次兵衛
〃三両　青柳　与一郎
〃五両　沼平　久右衛門
〃二両　岩根沢　久兵衛
〃五両　石田　甚右衛門
〃五両　〃　長登寺
〃七両　沢口　丹三郎
〃五両　松橋　治兵衛
〃七両　高屋　太兵衛
〃一両　八鍬　長右エ門
〃二両　沼山　善太郎
〃一両　〃　橋本坊
〃拾両　〃　白岩村

〃三両　米沢　治左エ門
〃一両　〃　彦右エ門
〃三両　沢畑　利助
〃二両　海味村
〃二両　柴橋　弥兵衛
〃一両　米沢　五右エ門
〃三両　中野　市太郎
〃二両　両所　任右エ門
〃一両二分　八鍬　与兵衛
〃一両　白岩　善太郎
〃一両　入間　清右エ門
〃一両　若木　忠右エ門
〃三両　梁沢　左七
〃一両　中野門傳　小三郎
〃一両二分　宮内　十兵衛

〆以上

同麓河江附

金百両　沢畑　権内
〃三十両　工藤小路　半左エ門

金三十両　新町　久右衛門
〃二十両　野田　新蔵
〃二十両　畑中　与右エ門
〃十両　〃　治郎兵衛
〃十両　雲河原　善兵衛
〃十両　六供町　清七
〃十両　〃　藤兵衛
〃二十両　上町　七兵衛
〃二十両　南町　久右衛門
〃十両　内楯　与惣次
〃四十両　石川　吉兵衛
　　市三郎
　　利兵衛
　　吉次

追加御上納

金拾両　楯南両組
〃六両　西町組
〃八両　六供町組
〃五両　新町組

〃三両　七日町組
〃二両　君田町組
〃十両　石川両組
〃十五両　三小泉村
〃三十両　溝延村六組
〃五両　仁田村
〃十五両　新田村
〃五両　嶋村
〃十両　工藤小路両組
〃二十両　大町村両組
〃十両　新町村
〃十両　野田村
〃三両　東大町
〃五両　藤助新田

右ハ丑六月中異国船渡来に付御冥加金上納仕い分記置也

刃
嘉永六年
（一八五三年）

一〇、

乍恐以書付奉申上候

松橋村名主四郎兵衛

一金七拾両也

外米百俵也　但三斗七升入　早場手当

内米七拾俵　当郡中村々

米三拾俵　奥河江郡中村々へ

右者今般浦賀表江異國船渡来有之右に付品川内海へ御臺場十一ヶ所御取建被仰出当時御普請中にて右は莫大の御入用有之ゆ由然る處昨年西丸御普請其外不容易御用途打続ゆ折柄にゆへ共御警衛向の義は万民の安危に拘り暫時も御打捨難被為置ゆニ付御入用も不被遊御厭前書御臺場御取建の段承知仕ゆ奉恐入ゆ義に御座ゆ就ては分限相応の上ヶ金も仕度心得に御座ゆへ共当夏は稀なる早魃にて田畑共多分の損毛有之作徳米其外收納のもの薄く甚だ難義の年柄に有之九牛の一毛に御座ゆへ共書面の金子御用途の内へ御加えに相成ゆは、冥加至極難有仕合に奉存ゆ何卒願の通り御聞済上納被仰付ゆ様偏に奉願上ゆ且米百俵の義は御支配所村々当夏早魃にて田畑共損毛多分村々夫食米不足差支の者共へ救米として差出度奉存ゆ向是又願の通御聞届御座ゆ様奉願上ゆ　以上

丑十月

柴橋御役所

右　四郎兵衛

丑嘉永六年（一八五三）